



卒業式後、校門前に設置された看板の前で記念撮影。学びやから新たな一歩を踏み出しました

津奈木中学校卒業式が3月6日(日)に開かれ、卒業生35人はクラスメイトと学校生活を振り返り、思い出が詰まった学びやに別れを告げました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年同様に出席者は卒業生、保護者、先生、在校生代表者のみ。卒業生は担任の榮永勇樹先生と津南学級の松永典子先生から名前を呼ばれ、壇上に上がると船場孝洋校長から卒業証書を受け取りました。船場校長から「新型コロナウイルスの影響で臨時休校を経験し、再開後も新しい生活様式が始まって当たり前の日常とはほど遠い学校生活を余儀なくされた。さまざまな困難を乗り越え立派に成長し、卒業を迎えられたことを共に喜び合いたい」とあいさつ。

卒業生を代表して山本さゆりさん(丸岡)が「先生の優しさと厳しくも温かな指導で今日の日を無事に迎えられることができました。多くの行事が変更や中止になったことは残念でしたが、その分何気ない日常が大切な思い出となっていました。根気強く支え導いてくださり、ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えていました。

コロナ禍という異例の状況で過ごしてきた学校生活。1日も早く「普通の生活に戻ることを願いながら、それぞれの道へ旅立っていきます。」



【写真説明】

①船場校長から1人ずつ卒業証書を受け取る卒業生／②答辞で3年間の思い出やこれからの抱負を述べた山本さん／③みんなで写真を撮り合って完成した横断幕。文化祭が中止となったため、記念になるものを残したいと制作／④思いを込めた寄せ書きをお世話になった先生に手渡しました／⑤絆を深めた仲間と最高の笑顔

◎特集 卒業式・卒園式

それぞれの道へ――

コロナ禍に伴う学校生活の変化にも負けず1年を過ごし、卒業の日を迎えた子どもたちを写真でお伝えします。

